

## 簿記3級検定試験 問5想定問題③『財務諸表』

決算整理前合計残高試算表から決算整理仕訳を処理し、貸借対照表・損益計算書を作成しなさい。  
×1年04月01日から×2年03月31日を会計期間とする。

### 資料①

決算整理前合計残高試算表

×2年3月31日

借 方		勘 定 科 目	貸 方	
600	4,900	現金	4,300	
4,700	17,700	当座預金	13,000	
15,000	34,500	売掛金	19,500	
10,000	20,000	受取手形	10,000	
11,000	15,000	貸付金	4,000	
3,000	3,000	売買目的有価証券		
100	100	仮払金		
5,500	5,500	繰越商品		
100,000	100,000	建物		
	5,000	買掛金	28,000	23,000
		貸倒引当金	400	400
		建物減価償却累計額	18,000	18,000
		資本金	100,000	100,000
	1,500	売上	1,501,500	1,500,000
		受取利息	440	440
1,008,000	1,008,600	仕入	600	
480,000	520,000	給料	40,000	
3,000	3,000	旅費交通費		
300	300	水道光熱費		
180	180	支払保険料		
400	400	消耗品費		
60	60	現金過不足		
1,641,840	1,739,740		1,739,740	1,641,840

### 資料②

- ① 出張の旅費交通費のために払い出した仮払金が精算された。全ては使われず30円が戻された。
- ② 現金過不足の残高のうち、50円は水道光熱費の支払い分の処理漏れで、残りは不明であった。
- ③ 期末における棚卸高は6,000円である。
- ④ 建物の減価償却費を計算する。取得価額は100,000円、対応年数は50年、残存価格は10%である。
- ⑤ 有価証券の決算日における市場価格は2,500円であるため、評価替えを行う。
- ⑥ 決算における消耗品の未使用額は100円であった。
- ⑦ 受取利息は×1年10月1日に年利4%で貸し付けた11,000円に対する1年間の利息である。
- ⑧ 支払保険料は×1年12月1日に向こう1年分の保険料を前払いした金額である。
- ⑨ 決算において、×2年3月21日～×2年3月31日の未払給与2,000円がある。
- ⑩ 決算において、売上債権に対して2%の貸倒引当金を差額補充法にて設定する。

解答用紙

貸借対照表  
×2年3月31日

勘定科目	金額	勘定科目	金額
現金		買掛金	
当座預金		貸倒引当金	
受取手形		( )給料	
売掛金		( )利息	
貸付金		建物減価償却累計額	
売買目的有価証券		資本金	
商品			
建物			
消耗品			
( )保険料			

損益計算書  
×2年3月31日

勘定科目	金額	勘定科目	金額
売上原価		売上高	
給料		受取利息	
旅費交通費			
水道光熱費			
支払保険料			
消耗品費			
貸倒引当金( )			
有価証券( )			
減価償却費			
雑( )			

解答

貸借対照表

×2年3月31日

勘定科目	金額	勘定科目	金額
現金	630	買掛金	23,000
当座預金	4,700	貸倒引当金	500
受取手形	10,000	(未払)給料	2,000
売掛金	15,000	(前受)利息	220
貸付金	11,000	建物減価償却累計額	19,800
売買目的有価証券	2,500	資本金	100,000
商品	6,000	当期純利益	4,530
建物	100,000		
消耗品	100		
(前払)保険料	120		
	150,050		150,050

損益計算書

×2年3月31日

勘定科目	金額	勘定科目	金額
売上原価	1,007,500	売上高	1,500,000
給料	482,000	受取利息	220
旅費交通費	3,070		
水道光熱費	350		
支払保険料	60		
消耗品費	300		
貸倒引当金( )	100		
有価証券( )	500		
減価償却費	1,800		
雑( )	10		
当期純利益	4,530		
	1,500,220		1,500,220

## 解答仕訳

No	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	旅費交通費	70	仮払金	100
	現金	30		
②	水道光熱費	50	現金過不足	60
	雑損	10		
③	仕入	5,500	繰越商品	5,500
	繰越商品	6,000	仕入	6,000
④	減価償却費	1,800	減価償却累計額	1,800
⑤	有価証券評価損	500	売買目的有価証券	500
⑥	消耗品	100	消耗品費	100
⑦	受取利息	220	前受利息	220
⑧	前払保険料	120	支払保険料	120
⑨	給料	2,000	未払給与	2,000
⑩	貸倒引当金繰入	100	貸倒引当金	100
	借方合計	16,500	貸方合計	16,500

## 解答解説

- ① 出張の旅費交通費のために払い出した仮払金が精算された。全ては使われず30円が戻された。

試算表の表記されている仮払金は100円。

30円精算されたという事は、70円が旅費交通費として利用されたことになる。

旅費交通費	70	仮払金	100
現金	30		

- ② 現金過不足の残高のうち、50円は水道光熱費の支払い分の処理漏れで、残りは不明であった。

試算表の表記されている現金過不足は60円

50円が水道光熱費として仕訳をする。

差額の10円は理由が不明のため、雑損で処理する。

水道光熱費	50	現金過不足	60
雑損	10		

- ③ 期末における棚卸高は6,000円である。

試算表に表示されている繰越商品「5,500」は当期首における繰越商品金額です。

つまり、前期末における繰越商品となります。

前期末で残った商品は、今期に販売しますので、費用(仕入)になります。

よって、以下の振替仕訳が必要となります。

仕入	5,500	繰越商品	5,500
----	-------	------	-------

それに対して今期末における商品残高は、今期の費用(仕入)にならず来期に持ち越されます。

よって、以下の振替仕訳が必要となります。

繰越商品	6,000	仕入	6,000
------	-------	----	-------

- ④ 建物の減価償却費を計算する。取得価額は100,000円、対応年数は50年、残存価格は10%である。

建物:100,000(取得原価) × 0.9(残存価格を引いた金額) ÷ 50年(耐用年数) = 1,800円

減価償却費	900	建物減価償却累計額	450
-------	-----	-----------	-----

- ⑤ 有価証券の決算日における市場価格は2,500円であるため、評価替えを行う。

試算表の表記額3,000円に比べ500円評価額が減っているため、費用が発生している仕訳をする。

有価証券評価損	500	売買目的有価証券	500
---------	-----	----------	-----

- ⑥ 決算における消耗品の未使用額は100円であった。

試算表から消耗品購入時の仕訳は、全額「消耗品費」として費用計上していると推測できる。  
期末時点での未使用の消耗品は資産。  
使用していない消耗品費は減額する仕訳をする。

消耗品	100	消耗品費	100
-----	-----	------	-----

- ⑦ 受取利息は×1年10月1日に年利4%で貸し付けた11,000円に対する1年間の利息である。

会計期間から、×2年04月01日～×2年09月30日分の半年分の利息を前受けしていると読み取れる。  
 $440(\text{受取利息}) \times 6(\text{前受月数}) \div 12(\text{1年間}) = 220$

受取利息	220	前受利息	220
------	-----	------	-----

⑧ 支払保険料は×1年12月1日に向こう1年分の保険料を前払いした金額である。

会計期間から、×2年04月01日～×2年11月30日分の8ヶ月分の保険料を前払いしていると読み取れる。  
 $180(\text{支払保険料}) \times 8(\text{前払月数}) \div 12(1\text{年}) = 120$

前払保険料	120	支払保険料	120
-------	-----	-------	-----

⑨ 決算において、×2年3月21日～×2年3月31日の未払給与2,000円がある。

今期に発生する費用を計上する仕訳

給料	2,000	未払給与	2,000
----	-------	------	-------

⑩ 決算において、売上債権(売掛金と受取手形)に対して2%の貸倒引当金を差額補充法にて設定する。

貸倒引当金繰入	100	貸倒引当金	100
---------	-----	-------	-----